

### 森美術館「私たちのエコロジー」で公害写真集の写真が使われます

東京・六本木ヒルズの森美術館開館 20 周年記念展『私たちのエコロジー 地球という惑星を生きるために』（2023 年 10 月 18 日～2024 年 3 月 31 日）に『この地上にわれわれの国はない』に収録されている写真の一部が展示されます！

2023 年 7 月 9 日森美術館の担当者から AAJPS のホームページに以下の問い合わせがありました。

この度、10 月から開催予定の環境をテーマにした展覧会で、『この地上にわれわれの国はない』を書籍で展示する予定です。資料自体は東京都写真美術館から借用いたします。展示に際し、掲載されている複数の画像を紹介できればと思っておりますが、書籍での展示ですと見開き 2 ページに限られてしまいます。そこで、冊子のページを撮影し、引き伸ばした印刷物を展示することを検討しているのですが、それに必要な著作権者（全日本学生写真連盟公害キャンペーン実行委員会）への許可申請方法について、ご教示いただきたく存じます。

理事会ではこれまで何かとお世話になっている北村弁護士と相談のうえ、①全日本学生写真連盟公害キャンペーン実行委員会はすでに解散している ② AAJPS としては著作権の許諾について判断する立場にはないーとお返事しました。しかし公害キャンペーンの取り組みや写真の選び方、販売活動などをお話ししたところ大いに関心を寄せられ、協力を要請されました。

写真に利用については、森美術館側の判断で

- ① P4-5：川崎（京浜工業地帯）
- ② P14-15：城山地区（北九州市八幡区）の屋根
- ③ P78-79：カネミライスオイルに混入した有機塩素剤による中毒患者の背中

の 3 点が 20 周年記念展の「第 2 章 土に還る 1950 年代から 1980 年代の日本におけるアートとエコロジー」に展示されることになりました。

また以下 9 か所の見開き頁についても幅 10 メートルという巨大な年表の中で使いたいとの追加要望があり、協力しました。



- ① P2-3：足尾銅山本山沈殿池
- ② P8-9：東京 霞が関ビル・東京タワーからの俯瞰
- ③ P26-27：足尾（古河鋳業硫酸工場）
- ④ P28-29：富士 岳南汚水反対漁民大会海上デモ（田子の浦）・漁民反対デモー大昭和製紙正門前
- ⑤ P34-35：水俣 家の中で母親に抱かれる胎児性患者の娘さんなど
- ⑥ P38-39：四日市石油コンビナート
- ⑦ P50-51：四日市 雨池・三菱油化四日市工場・磯津
- ⑧ P64-65：黒部（カドミウム汚染田など）
- ⑨ P74-75：小名浜・神島（笠岡市）

3 月いっぱいまでのロングランです。ぜひ皆様 観覧にお出かけください。 入場招待券を頂いております。

ご希望の方はお申し出ください。



### 幻の写真集『切点』

1960 年代後半、斗争と向き合って製作されたスライドや出版された本などはかなりあります。スライド『ゲキツツメモ』、写真集として『10.21 とは何か』『'69 佐藤訪米阻止斗争 11/13-17』『解放区 '68』『NON』『廣大斗争 8.17-18』そして週刊四九一で大々的に取り上げながら未刊で終わった『'69.10.21』など。

先日後輩が段ボールいっぱいの文献資料を届けてくれました。その中に他の写真集とともに『切点』と題された B4 サイズ 8 ページの写真集が一冊入っていました。何時・誰が・何処で作成したのか全く記述がありません。届けてくれた当人にも心当たりはないとのこと。最後のアピールに「69 年秋以降…」と記述があり 1970 年になって作成されたと想像されました。そこからこの写真集についての捜索が始まりました。手掛かりは使われた写真しかありません。

アジテーションしている闘士の後ろの立て看の中に「徳島大全共闘」と読むことが出来る文字を F 氏が発見しました。その後 Y 氏よりもっと詳しい情報が寄せられました。それによると、徳の字が散見されること、反帝合評のヘルメットが多いこと、そしてなにより「専売超合理化粉碎・不当処分白紙撤回」の横断幕があることか

ら、当時徳島地裁で専売公社労働組合員の処分撤回を求める裁判が行われていたことなどから、これらの写真は 1969 年後半に徳島で撮影されたと判断できると思われました。そこで、1972 年に徳島大学に入学し、写真部に在籍した T 氏にメールで問い合わせたところ、入学時には部室に山積みになっていたとのこと。それらのことから判断して徳島大学の斗争の記録として当時の写真部のメンバーが作成したと思われま



何故に制作者や版元を明かさず写真だけを残したのか……。

そこに時代の闇があるのかもしれない。

我々のアーカイブに加えたいと思います。

AAJPS ホームページ  
<https://aajps.or.jp>



## 集団撮影「立川」の写真集に向けて

2018年 小平で「立川」の写真（キャビネ）200枚ほど発見されました。まずクルクルになっていたプリントを一枚一枚みえる形に直す事から始まりました。

そしてすこし変色した写真の束を前にして、50年前の東京の近郊の街として変わりゆく姿とまだ戦後の臭いが残像し、今では見られない景色と人の顔があり、「基地の街・立川」の様相が浮かび上がってきました。

私たちは記録として残す事を考え、Zアーカイブに掲載する事になり、撮影地が広範囲なので、群（街・周辺・砂川・基地）に分けてセレクトしました。

2020年セレクトをしていたので、もう少し煮詰めたいと思いレイアウトに取り組みました。また2021年、公害部門から新たな「立川」の写真が発見され、レイアウトに展開していきました。そして谷沢さんがデータを補正し、新たな写真を作成し、記録として残すために写真集を考え始めました。

一度目のレイアウトは群の「街」から考え始めましたが、すこし説明的な要素が強いレイアウトになってしまい、行き詰まりを感じてしまいました。

そこで最初のとき束の写真を見て起ちあがってきた「基地のある立川」の空間にストレートに向き合うことにしました。群としては「基地・福生」からはじめること事で、新たに写真に向き合えた感じがしました。それは大きな転換になり、まえに進むことができました。

小倉さんは撮影者としての発信力、谷沢さんは補正力を発揮して、仲間で作りに上げていく熱量と密度のある時間を感じました。

コロナ禍の中、緊急事態で集まれない時もあり、長い年月の中でどうにか写真集として結実することは感慨深いです。

阿部静子（能登）

この50年、大妻大学写真部が集団撮影をしていたこと、そして、こんなに多くの写真が撮られ、集められていたことを知らずにいました。

空白の・・・を埋められる訳はないのだけれど何かの手助けになるかも知れないという思いで、時々の集まりに加わりました。

写真のセレクト、レイアウト、修正を進めながら、あの頃の雰囲気を感じ、自分の事を思い出していました。他校写真部の例会に意気揚々と参加したり、会合の為に純喫茶通い、闘争の写真を撮っている学生の後方支援の

ために喫茶店に詰めたり、砂川闘争の支援の意味で、住所、氏名を書いた木札を撮影者に託し、あれはどうなったんだろうと思ひ悩んだこと等々。

人へカメラを向けることが今よりも楽にできた時代だったかもしれないけれど、よくぞと20才前後の彼女達が成したことを形にしたいと思いました。

曾根衣佐美（谷澤）

集団撮影「立川」に向き合って

1968年秋から撮影を始めた「立川」は1969年の春の卒業と共に、どのように終了したかも分からないまま私の記憶から消えていた。

50年ぶりに眼の前にしたキャビネの写真は丸まり色褪せ、かなり無惨な姿をしていて、それを修正して、選別、レイアウトを繰り返す中で、当時の立川の記憶が少しずつ蘇ってきました。それらをメモにまとめました。

集団撮影「立川」覚書

\* 立川市内 曙町、高松町

ここら辺りは当時呑み屋が沢山並んでいた。近辺に外階段のあるアパートがあり、路上は舗装されていない。私が歩いた記憶では雨か雪の後で、道がぬかるんでいて、呑み屋の窓のような所から女性の手が「手招き」しているような感じでビックリした記憶がある。時折、外人男性と日本女性のカップルを見かけた。

\* 立川のバー

どのようにして店内に入れたのか記憶はないが、店内の印象、雰囲気は残っている。店内は薄暗く、音量も静かでしっとりとしていた。皆で騒いでいるのではなく、独りでうつつむいて、何かに浸っている感じがすごく印象が残っている。若い外国人で、当時はベトナムからの帰還兵かなと思った。

\* 福生

アメリカ軍横田基地の側のある町で、「基地の町」そのものである。街中は横文字の看板も多く見かけ、アメリカ人をよく見かけた。バーの店内は明るく、位の高い米兵のようで軍服姿が目立った。きさくな感じで私達と話もした。

\* 砂川

団結小屋の側にいた時、その頭上を米軍のずんぐりした飛行機がとんでいて、のしかかってきそうで驚いた記憶がある。

勝又邦子（小倉）

## “足尾”で展示する「足尾の写真」

足尾銅山観光待合室では、この夏、館林市の田中正造記念館で開催した「足尾銅山閉山50年写真展」の写真を板壁全面に埋めるようにして貼ってあります。そして11月からは「坑夫たち」の写真に差し替える予定です。また、足尾行政センターでは、「わたしがここにいる」と銘打って50年前の「足尾の人たち」の写真を100枚程並べています。実際に、70歳を過ぎた女性が「あっ、これ私だ！」

と成人式の着物姿の御自身と遭遇されたりするという具合に企画は順調と言えると思います。こちらも11月から写真を差し替える予定です。

**『足尾』** 2カ所同時写真展示

【足尾銅山観光待合室】  
“足尾銅山閉山50年写真展”  
期間：9月7日～11月30日



【足尾行政センターエントランス】  
“わたしがここにいる”  
—1973 足尾—  
期間：第1弾 9月7日～10月11日（子供編1）  
第2弾 11月3日～11月30日（子供編2）



'65～'79までの全日・491のアーカイブ作りは着々と進んでいます。お手持ちのネガや資料の情報をお知らせください。

お問い合わせ等：277-0053 柏市酒井根 2-20-11 東 闊 hig811@gmail.com